

# さいたま市教組新聞

編集・発行/  
さいたま市  
教職員組合  
〒330-0843  
さいたま市大宮区  
吉敷町4-93-5  
大宮教育会館2F  
TEL 641-6763  
FAX 648-3567  
2020.6.22(月)  
No. 260

子どもたちが戻って  
きた喜ばしさと共に

# 学校再開！

## 山積する課題

子どもたちの学習保障・  
いのちと健康を守る施策・  
学校現場へのバックアップを

6月1日学校が再開。  
学校に子どもたちの姿が戻ってきた。この日に至るまで、私たち教職員は休校中の学習保障のための教材作り、コンテンツの作成、再開に向けた校内の安全対策、消毒の実施等大変な努力を注いできました。  
そして、5月25日。委員会からのゴーサインを得て、学校から保護者に準備登校の具体的な連絡を取るため、現場では今か今かと委員会からの連絡を待ち続けました。  
記者会見を経て教育長の保護者に向けられたメッセージは3000字。それが安心メールに配信された時刻は、夜の8時を過ぎていました。  
「詳しくは、各学校のホームページをご覧になっていただき・・・と書かれていたので、水曜からの準備登校を考えるとこの日のうちに学校からのメールを配信しなければならず、深夜に

### 休憩時間、昼食時間も取れず

1日の学校再開に向けては、各学校とも入念の準備を行ってきたはずですが、しかしながら、いざ始まってみると多くの問題が発生しています。その実態が、次々と市教組にも寄せられています。教育委員会の提案通りの時程では、教職員の労働実態が大変なことになりました。午前登校の児童生徒を下校させ、すぐ消毒作業をして午後からの体制を整えるために満足に昼食をとれない事態が各学校で発生しました。牛乳と栄養ゼリーをあわててかき込んで、もう午後の授業となりました。

また、「給食の配膳は教師が行う」という指示には、大混乱が発生し、パンと牛乳だけでさえ煩雑になっている状況で、15日からの完全実施の時には、どんな状

送る事態となってしまいました。それでも、27日からの準備登校を経て、6月1日から学校が再開されました。

### 教育課程の再編成 6月30日までの提出など ありえない！

当初は子どもたちが学校に慣れること、そして、昨年度の未履修の取り戻しが中心になると思っています。また15日からの本格的な授業体制になってからは、1学期の見通し、そして、今年度の見通しをどのように持つたらいいかも重要な課題です。教育課程の編成権は当然学校にあるわけですが、この緊急時、ある程度ガイドラインを委員会に示さなければなりません。

その後、市教委は時教をモデル案を各学校に示しました。それぞれの職場で

が、現場ではまだまだ懷疑的です。限りなく標準時数に近付けるのか、それとも本当の意味で学校の実態、意向を尊重していいのか。現に1週間毎日1時間ずつ授業時間を増やす学校があるのとは反対に、中学校であっても当面45分授業を実施する学校、1時間減らす小学校、朝習をモジュール化して授業時数に充てる学校、と様々な改善策・対応が伝えられています。間違っても、あとになって委員会から修正の指示が出されるようなことがないように、また、授業時数はかりに気が向けられ、学校現場の長時間過密労働がさらに悪化したり、子どもたちに負担がかかったりするようなことがないように、市教委の思いやりのある連絡調整を望みます。

### さらに重要な改善を 要求したい

市教組の指摘もあり、計画訪問の中止や緊急性のない出張の中止、Web会議への変更など改善されているものもあります。また、休校中のSAさん等会計年度職員にも、正規採用職員同様、在宅勤務を認めた市教委の通知について、現場で周知されていない実態も伝え、改善を要求しました。現在市教組には、1学期通知表の廃止、アンケート

の精選、小学校の英語トライアル、人事評価の項目等々、学校再開に関わる事項だけでも様々な問題が絶えず寄せられています。  
15日からの本格実施で、学校の生活時間等を性急に「通常」に戻そうとするあまり、子どもたちがその変化や緊急性に対応できないままに事態が進んでしまうという実態も見られます。  
今後、子どもたちや教職員の命と健康を守ることが最優先とし、学校が正常を取り戻すため、私たちがさいたま市教組は、積極的に市教委に対して問題点を指摘し、改善を要求していきます。引き続き学校現場での疑問、問題点、改善点を市教組にお寄せください。

